

●目的

本協議会は会則に定める通り、以下を事業の目的として活動している。

○利用者にとってわかりやすく利用しやすい支援システムの構築をする。

- ①ヘルプ事業所間の連携によるサービスの向上を図る。
- ②利用者ニーズに応じた新たなサービスを創造する。
- ③支援サービスに携わる全事業所の知識・技術の底上げを行う。

●会員

本会の目的に賛同する大津市内においてヘルプ事業を行う事業所を対象としている。2006年度の会員状況は以下の通りである。

- ・ 15事業所（大津市内においてヘルプ事業を行う全事業所数は57事業所）

うち以下の事業所を事務局および運営協力会とした。

- | | |
|---------|--------------------|
| （事務局） | ・ 知的障害者地域生活支援センター |
| （運営協力会） | ・ ふれあいサポート西大津 |
| | ・ おおつ福祉会ホームヘルプセンター |
| | ・ ヘルプステーションガル |
| | ・ 地域生活サポートセンターじゅぷ |

●事業とその成果

◇定例会議（事業所間の連携と新たなサービスの創造）

毎月1回の定例会議を行った。その主な内容は以下の通りである。

- ・ 自立支援法に係る情報交換。
- ・ 移動支援事業に係る情報交換、その課題から新たなサービスを創造し市へ提案。
- ・ 福祉輸送に係る情報交換。
- ・ 請求事務エラーについて、協力し合い解決に努めた。
- ・ ヘルパーの人材不足について、相談し合った。
- ・ 医療ケアについて保健所を招き知識を深めた。
- ・ その他、現場での具体的な困りごとについて話し合った。

2006年度は自立支援法の施行という制度の大きな転換期であり、利用者や事業所、行政の混乱が多くあった。そのような状況の中で、事業所間の情報を共有することで、より早く、確実な情報を得ることができた。それにより、利用者、事業所の混乱をやわらげることができたのではないだろうか。

また、利用者からの意見、現場での課題を共有することで、制度の矛盾点や課題を見つけだし、市に提案することができた。特に移動支援事業については、2006年10月より市町村事業に移行したばかりであり、新制度のため課題が多い。当協議会でまとめた意見を市に提案したことところ、来年度からの改正に採用された。これはまさに当協議会の目的のひとつである「利用者ニーズに応じた新たなサービスの創造」であり、今年度の最も大き

な成果と言えるのではないだろうか。

◇学習会

制度に振り回されることの多い年度ではあったが、学習会においては、ヘルパーの悩み、現場での声を元に企画をすすめた。利用者とヘルパーが、またはヘルパー同士が、それぞれの思いを知ることができ、あらためてヘルプの内容について考える機会ができたことは大きな成果であったのではないだろうか。企画した学習会と参加者の感想（抜粋、意識）は以下の通りである。

○「利用者ニードとホームヘルプに求められること」

第1回「当事者がホームヘルプに求めること」（9月13日, 25日）

まちプロ一座による演劇公演とパネルディスカッション、意見交換

参加者 25名（13日） 34名（25日） 計 59名

- ・利用者と本音で意見を言い合ったり、みんなの意見が聞けて良かった。
- ・利用者とヘルパーの想いのズレは永遠の課題、だからこそ歩み寄りたい。
- ・ヘルパーという仕事に悩んでいる人が多い。そういう話をしていきたい。

第2回「発達保障から見たホームヘルプサービス」（10月25日）

中村隆一先生（やまびこ園）による講義 参加者 35名

- ・
- ・

第3回「利用者の生活全体を考えたホームヘルプサービス」（12月18日）

グループワークでヘルパー自身の視点からのヘルプサービスのあり方についての意見交換・共有

参加者 22名

- ・
- ・

◇大津市自立支援協議会への参画

2006年10月より発足した福祉・医療・教育など横断的に課題を解決する場である大津市障害者自立支援協議会より依頼があり、代表が委員として隔月1回開催される全体会議に出席。ヘルプ事業や福祉分野だけでは解決できない課題を地域での共通の課題として捉えてもらうための役割を担った。今年度は課題を伝える段階にとどまったが、今後、具体的な検討を進める方法として、関係者による部会を開くことが検討されている。

◇事業所ガイドブックの作成

◇その他、会員間の親睦のため、交流会、忘年会を開催した。

9月13日 学習会後の交流会

12月18日 忘年会